



題字 井口 文章
再刊 第292号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：2年生春の横浜校外学習
錦城祭に向けて準備進む
二面：GW部活動大特集
囲碁の世界で活躍する錦城生

文化の大海原、横浜へ

56回生校外学習行われる

5月10日(金)、2学年春の校外学習が30年ぶりに横浜で行われた。当日は快晴に恵まれ、グループごとに事前学習で調べた資料を基に、横浜の様々な名所について知識や見解を深めた。

今回2年生はみなとみらい たなクラスメイトと交流を深め、エリア、関内エリア、山下公園・山手エリア、三溪園、野毛山動物園の見学場所を各組でまわった。独自の文化を持つ港町・横浜の魅力に触れるとともに、班行動を通して新



山下公園の巨大な水車丸を前に笑顔の2年生



中には日本で売られていない珍しいパッケージも

みなどみらい駅から徒歩8分の場所にあるカップヌードルミュージアム。ここでは世界にひとつだけのオリジナルカップヌードルを作ることができる。カップにイラストなどを描いて好みのスープとトッピング具材を選ぶ。味の組み合わせは合計546通りもあるという。班員同士で相談しながら、デザインや具材を和気あいあいと決めている場面も見られた。

船内の廊下を進むと、ダンスパーティーの会場として使われていた一等社交室があり、ここでは実際にソファに座ることが出来る。ふかふかのソファに座り、優雅な装飾が施された室内に居ると、本当に乗客になった気分を味わえる。操縦室の窓の外には広大な海が広がり、横浜の空気を存分に感じた。

中華街からほど近い山下公園内に係留保存されている日本郵船水川丸は、1930年に建造されたから30年、実際に航行していた貨客船。山下公園で一際目を引くこの大きな船は中に入る事ができ、現在は船の内装や水川丸に関する資料を見ることが出来る。

分もある。「飾り毛布」もその1つ。給仕が客室の毛布をたたむ際、花や富士山などに見立てた畳み方をしたそう。このような日本独特の細やかなおもてなしは、乗客や乗組員達の目を惹きつけていたという。外国と長い歴史がある横浜で、日本のおもてなしの心を感じることができた。

3つのエリアから離れたところに位置する「三溪園」は、明治時代末から大正時代にかけて、製糸・生糸貿易で財を集められた17棟の歴史的建造物が数多く立ち並ぶ。正門を入ると、小舟の浮かぶ大池が広がる。外苑をさらに歩いていくと室町時代の建造物、三重塔が。三重塔近くの長い階段を上ると、横浜の港を一望できた。その後、江戸時代に作られた合掌造りの民家「旧矢野原家住宅」を見学。家の中では、当時の空気を感しながらガイドの説明を聞きながら、薪がくべられたりろりや家具から、当時の生活を知ることができた。

見学後は園内の茶屋でほっと一息。ガイドさんおすすめの桜アイスやお団子、梅かき氷を食べた。

「令和」の幕が開いた5月1日から、4日連続でプロ野球の試合を所沢のメットライフドームで観戦した。4日間とも選手たちは大きな歓声を浴びながら、ダイヤモンドを駆け抜けていた。今までの約100試合を現地で見ることが出来た。忘れられない試合がある。それは2014年7月2日の埼玉西武ライオンズ対北海道日本ハムファイターズ戦。この日は現在メジャーで活躍する菊池雄星選手と大谷翔平選手が投げ合っていることでもあり、多くの野球ファンが注目していた。場面は9回裏。ライオンズが2点リードからランナーを2人出し、ホームランで逆転サヨナラの状況を作った。このチャンスに途中出場の斎藤選手に打席が回る。プロでホームランを1本も打つことがない彼だから、「逆転は不可能だ」と思いこの場面を観ていた。しかし彼は甘く入ったスライダーを強く叩いた。打球は大声援と共にスタンドへ。試合に終止符を打つサヨナラホームランとなった。そのとき「たった1球でこんなことが起きるのか」と度肝を抜かれた。試合前誰よりも先に球場入りし、人知れず汗を流していた彼の努力が実を結んだ瞬間であった。▼昭和の大投手江夏豊選手は「ピッチャーは1球で地獄を見る。バッターは1球で天国へ上がる」と話している。あの試合、斎藤選手は「振り回されて天国へ上がったかもしれない。しかし相手投手にとっては地獄な試合となっただろう。▼チャンスはいつでも周りに転がっている。しかし、実力を持っていないければそれを活かすことができない。だから私も勉強や進路の大きなチャンスに備え、日々「素振り」のような努力を積み重ねている。もし、チャンスが訪れたときには斎藤選手のように最大限の「フルスイング」でよりよい人生を送れるように努めたい。(李)



劇団四季の迫力ある演技を堪能

5月2日(木)に3年生が、四季劇場「夏」で「ライオンキング」を観劇した。「ライオンキング」は今年で20周年を迎える超ロングヒット作品。ライオンキングの王が治める動物達の世界を舞台に、家族や仲間、先祖、生命の繋がりの大切さを訴える作品だ。

主人公シムバは、ライオンの子王様。やんちゃな性格だが、心優しい父であるムファサや友人のナラ、執事のザズ

生徒総会行われる

5月15日(水)、第1体育館に生徒総会が行われた。各団体の予算について、賛成多数で承認された。次号以降でお伝えする。

美食満載の中華街

横浜高速鉄道元町・中華街駅で電車を降り、地上に出ると目の前には中華街東門が現れる。人であふれる東門をくぐると、中国風の建物が所狭しと軒を連ねる中華街。錦城生はもちろん他校の校外学習中の生徒も多く見られ、平日ながら多くの人であふれている。店先には小籠包や肉まんといった中国料理をはじめ、苺飴やタバコといった若者に人気のものも売られている。多くの人が小籠包やタバコオカのカップを片手に食べ歩きを楽しんでいた。

皆で描っていただきます!

56回生

禁煙ポスター

焼小籠包

模型に興味しんしん

錦城祭テーマ決定 星河一天~新時代の輝き~

今年の錦城祭のテーマが「星河一天~新時代の輝き~」に決定した。錦城祭実行委員長の森彩葉さん(2M)によると星河一天という四字熟語は、空いっぱいに数えきれないほどの星が輝いているという意味で「錦城生1人ひとりが輝いてほしい、新しい自分の輝きを見つけてほしい」といった意味を込めたという。

また、今年から審査基準に錦城祭のテーマと企画の関連づけをすることが加わった。目指すものは統一感。去年のテーマである百花繚乱で、花飾りなどにより偶然統一感が出ていたことがきっかけになったという。とはいえテーマの解釈を1つに縛るのではなく「色々な解釈をして企画を考えていいと思う」と森さんは語った。結果通知も去年までと異なり、生徒会の意見箱付近に張り出すそう。さらに、企画投票の表彰を全校生徒の前できちんと行い、大賞のクラスには景品を贈る予定もあるという。

最後に森さんは「テーマを作った目的である、学校を1つにすることを目指して頑張ります。盛り上がっていきましょう」と錦城祭への意気込みを述べつつ「ポスターなどの絵を募集しています。詳細はクラスに掲示している錦城祭だよりに掲載しているため、ぜひ応募してください」と協力を求めた。(薊)



「ポスターの絵も募集中です」と委員長

情報集中講義 SNSと薬物乱用の危険性を学ぶ

5月10日(金)に1年生をめぐり、人とはなるべく話して話対象にした情報集中講義が第一。後半には外部から来た2人、一体育館にて行われた。インターネットや薬物乱用の向きの危険性を学んだ。

講師は、アディッシュ生からのインターネットに関する講義。芦澤先生は「インターネット利用について、アディッシュ生が活躍するソーシャルメディアの正しい向き合い方を伝えた。三角さんは「1歩でもインターネットの使い方間違えると取り返しのつかないことになってしまいます。1度立ち止まって自分の行為を見直してみてください」と警鐘を鳴らした。

2つ目は「薬物の真実を知ると語る。最近SNSでの日常を」と語る。最近SNSでの日常を「会話が聞き取りづらく、対面での外部の講師の方から、DVD話に苦手を意識してしまっ」などを通じて、薬物乱用を防止する重要性を伝えた。

インターネットや薬物の知識が増えているそう。初対面識を正しく識別していくことの人との関わり方も学べることを大切にしよう。(卵)



コミュニケーションのコツは対面にあり

むらさき草

「令和」の幕が開いた5月1日から、4日連続でプロ野球の試合を所沢のメットライフドームで観戦した。4日間とも選手たちは大きな歓声を浴びながら、ダイヤモンドを駆け抜けていた。今までの約100試合を現地で見ることが出来た。忘れられない試合がある。それは2014年7月2日の埼玉西武ライオンズ対北海道日本ハムファイターズ戦。この日は現在メジャーで活躍する菊池雄星選手と大谷翔平選手が投げ合っていることでもあり、多くの野球ファンが注目していた。場面は9回裏。ライオンズが2点リードからランナーを2人出し、ホームランで逆転サヨナラの状況を作った。このチャンスに途中出場の斎藤選手に打席が回る。プロでホームランを1本も打つことがない彼だから、「逆転は不可能だ」と思いこの場面を観ていた。しかし彼は甘く入ったスライダーを強く叩いた。打球は大声援と共にスタンドへ。試合に終止符を打つサヨナラホームランとなった。そのとき「たった1球でこんなことが起きるのか」と度肝を抜かれた。試合前誰よりも先に球場入りし、人知れず汗を流していた彼の努力が実を結んだ瞬間であった。▼昭和の大投手江夏豊選手は「ピッチャーは1球で地獄を見る。バッターは1球で天国へ上がる」と話している。あの試合、斎藤選手は「振り回されて天国へ上がったかもしれない。しかし相手投手にとっては地獄な試合となっただろう。▼チャンスはいつでも周りに転がっている。しかし、実力を持っていないければそれを活かすことができない。だから私も勉強や進路の大きなチャンスに備え、日々「素振り」のような努力を積み重ねている。もし、チャンスが訪れたときには斎藤選手のように最大限の「フルスイング」でよりよい人生を送れるように努めたい。(李)

